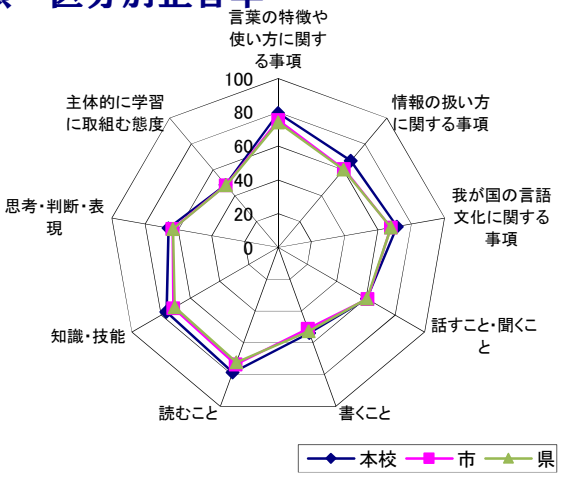
宇都宮市立富士見小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.5	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	67.0	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	60.6	61.0	60.7
	書くこと	53.8	51.2	52.8
	読むこと	78.7	73.7	72.4
観点	知識･技能	76.3	71.7	70.6
	思考･判断･表現	66.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	48.4	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○本領域の平均正答率は79.5%で，県の正答率を5.4ポイント上回った。 ○「４年生の漢字を書く」の全ての問題において，県の正答率を10ポイント近く上回った。 ●「連体修飾語の理解」についての平均正答率は64.8%で，県の正答率を6.2ポイント下回った。	・修飾語をはじめとする「文法」や「語彙」について，朝の学習や宿題等で復習を行い，習熟を図る。 ・漢字の学習については，引き続き宿題等で定着を図るとともに，熟語集めや短文作り，漢字の構成など工夫して自主学習等に取り組ませ，日常生活の中で習った漢字を活用できるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	○本領域の平均正答率は67.0%で，県の正答率を6.8ポイント上回った。 ○説明文の内容を読み取る問題において，「情報と情報の関係を理解し，中心となる語や文を見つけて要約している」の平均正答率は74.3%で，10.1ポイントと大幅に上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し，理由や事例などを挙げながら話している」の平均正答率は県の正答率を1.2ポイント上回ったものの，37.1%と低い。	・昨年度の課題であった，説明文における情報の読み取りについては，正答率が大幅に向上した。引き続き，説明文の学習の際，文章全体の構成を把握させるとともに，まとまりや段落相互の関係を意識して読み取らせるようにしていく。 ・社会の授業で図や表，グラフから読み取ったことを話し合ったり，総合的な学習の時間などでアンケート結果を基に発表したりする活動を取り入れるなどして，資料を基に検討する活動で習熟を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○本領域の平均正答率は71.4%で，県の正答率を3.6ポイント上回った。	・「ことわざ」や「慣用句」，「四字熟語」だけでなく，親しみやすい古文や漢文の音読，方言などにも親しませる。
話すこと・聞くこと	●本領域の平均正答率は60.6%で，県の正答率を0.1ポイント下回った。 ○調査の結果を基に話し合う問題において，「意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている」の平均正答率は46.7%で，県の正答率を4.1ポイント上回った。 ●「司会の役割を果たしながら話合い，意見の相違点に着目して，考えをまとめている」の平均正答率は45.7%で，県の正答率を0.8ポイント下回り，無回答が11.4%だった。	・学級会やグループでの話合い活動の際，輪番制で司会を経験させることで，司会の役割を理解させるとともに，考えをまとめる活動に取り組ませる。 ・話を聞くときに，『聞き方のあいうえお』を意識し，伝えたいことの中心に気を付けながら，考えて聞くようにさせる。
書くこと	○本領域の平均正答率は53.8%で，県の正答率を1.0ポイント上回った。 ○「段落の役割について理解し，２段落構成で文章を書いている」の平均正答率は56.2%で，県の正答率を3.2ポイント上回った。 ●文章を書く問題の全ての設問において，無回答が21.0%だった。	・「指定された長さで書く」「２段階構成で書く」など，条件を示して作文に取り組ませるとともにをさせるとともに，定期的に日記や作文の宿題を出すなど，「書く」指導の充実を図る。
読むこと	○本領域の平均正答率は78.7%で，県の正答率を6.3ポイント上回った。 ○「物語文の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」の全ての設問において，平均正答率が県の正答率を上回った。「登場人物の気持ちについて，叙述を基にとらえている」の平均正答率は54.3%で，県の正答率を10.0ポイントと大幅に上回った。	・朝の読書活動や定期的な図書室の利用を通して，日常的に読書に親しませる。 ・物語文の学習の際，描写を基に登場人物の心情を捉え，表現の効果を考えながら作品を読み取らせる。